



未来の社会へ はじめの一步

陸上で生活する哺乳類の多くが4足歩行である中で、人類だけが直立2足歩行を獲得している。不安定な片足立ちと着地を繰り返すこの動作は、関節の1つ1つを巧みに動かし、重心を絶え間なく調整し続けるという複雑なものである。

多くの哺乳類は生まれてすぐに歩き始めるが、人は1年前後かけて歩くことを覚え、視界や手の届く範囲を大きく広げていく。直立2足歩行のおかげで、人類は両手を自由に使って道具を作り、脳を発達させて言語を操り、高度な文明を築き上げてきた。

2月号には「歩く」から生まれた技術がちりばめられている。Featureでは、ヒューマノイド(人型)ロボットの2足歩行技術を生かした自然に歩ける義足と、歩き方の映像から個人の年齢や性別、感情、健康状態までを人工知能(AI)で高精度に読み取る技術を紹介する。さきがける科学人には、しま模様の錯覚で歩行者を右側通行へ誘導する床シートの研究者が登場する。

かつて人類の祖先がそうであったように、「はじめの一步」を踏み出す技術が未来の社会をつくっていく。